



職種案内

製缶工



プラントは溶接構造物の集まり。
その溶接構造物を、金属を加工して組み立てる。
それが製缶工の仕事です。

製缶工の役割

各種プラントのさまざまな場所で目にするボイラーや圧力容器、タンク、ダクト、架構、大口径配管など…これらはすべて「溶接構造物」です。この溶接構造物を作るのが製缶工。溶接構造物の強度と性能の確保はプラントの安全な操業に直結するため、製缶工は極めて重要な役割を果たします。

製缶工は溶接構造物の施工だけではなく、計画から品質管理、工程管理など、関連するすべての業務が守備範囲です。責任ある仕事であり、プラントを作って操業するために、なくてはならない職業なのです。

製缶工の重要性

製缶工は金属の性質を知り尽くしたスペシャリスト。金属を「叩き」、「押し」、「炙り」、「曲げ」、「切って」、「磨き」ながら、溶接構造物を形にしています。

トラブルなどにより設備を補修して復旧する場合も、製缶工の巧みな技術が必要とされます。でも、設計したとおりにできていない溶接構造物は、最悪の場合、破壊につながります。それだけに製缶工の持つ責任は大きいですし、日々の修練と多くの経験を経て、その仕事は世界中のプラントを支え、人々の暮らしを守っているのです。

製缶工



どうやったら製缶工になれるの？



製缶工になれるチャンスは意外と多くの人にあります。まず、プラント関連の設備工事業を行っている会社に入社しましょう。教育や訓練は会社から指導してもらえます。



製缶工のやりがいは？



成果が溶接構造物という形になること。特に次のようなときに実感することが多いです。

- 難しい形や大きな溶接構造物が完成したとき
- プラントが運転し始めたとき
- 壊れた設備を補修して再稼働できたとき



具体的にどんな仕事をするの？



設計図を見て金属を加工し、指定された形状の溶接構造物を作ります。一人ひとりの「匠の技」も必要ですが、どのような順序で作っていくかなど、仲間とコミュニケーションを取りながら行うことも大切です。



製缶工の働く場所は？



基本的には入社した企業の製造工場が職場ですが、作ったものを現地で据え付けたり、出張して施工することもあります。出張では国内だけでなく海外のプラントに行くことも。腕のいい製缶工は世界中で必要とされているのです。

免許&資格

- 鉄工技能士(1級・2級)
- ガス溶接作業主任者
- 手溶接(JIS N-2F)
- 半自動溶接(JIS SN-2F)
- ステンレス鋼溶接(JIS TN-P)
- など

